令和7年度収入支出予算について

予算編成の前提となる令和6年度の収入支出見込については以下のとおりです。

一般勘定は実質で151,285千円の黒字となる見込です。昨年度の実質赤字2,711万円から一気に黒字転換予想となりました。積立金を取り崩さず、頂いた保険料だけで支出が賄えそうです。

収入面では、健康保険料がベースアップに伴う月額保険料増と、賞与分の保険料増額を反映し、対前年度比で4,423万円の増加を見込んでいます。

繰入金は今後の医療費次第ですが、いまのところ繰り入れなくて済みそうです。

納付金が多大であるための国の補助金は2,100万円の収入見込みです。

続いては支出面です。保険給付費は昨年度、組合史上初めて8億円を超えたとお話ししましたが、令和6年度はこれを更に上回り8億4,245万円を見込んでいます。昨年度同様、本人・家族ともに毎月300万から500万円を要する超高額患者さんが、複数人いらっしゃって、これは現在も続いています。

納付金は昨年度比で1億9,168万円の大幅減となる6億5,387万円を見込んでいます。令和6年度が黒字になるのは、この納付金の減少が大きく影響しています。なぜ減少したかという点、過年度精算金が約6,000万円あり、本来納めるべき額から引かれているのに併せて、当組合に加入されている65歳から74歳の方の1人当たり医療費が下がって前期高齢者納付金が減少したためです。

介護勘定については約1,300万円の黒字となる見込です。

組合の予算編成については、基本的には厚生労働省から示された予算編成通知に基づいて行うことになっており、昨年12月27日付でこの通知が発出されました。

当組合の令和7年度予算編成方針は、この通知内容を踏まえ、つぎのとおり作成いたしました。

【令和7年度予算編成方針】

1. 一般保険料率は千分の92、介護保険料率は同18を維持する。
 - ・調整保険料率も千分の1.3で変更なし
 - ・その他国庫補助金の名目計上
2. 保険給付
 - ・薬価▲0.52%のマイナス改定
3. 納付金
 - ・令和5年度の納付金過払いにともなう精算
4. 保健事業
 - ・「すこやかファミリー」「健保だより」の廃止

- ・健康電話相談の廃止
- ・家族健康診断の受診単価アップ

5. その他

- ・事務所のサーバ等基幹システムの更新
- ・健保組合事務所費の増

6. 上記以外のその他事業は前年度の内容を踏襲

去る1月29日開催の理事会で決定した、この編成方針に基づき、予算書等は作成しております。令和7年度一般勘定の予算規模は17億2,342万5千円となりました。経常収支は1億4,989万4千円の2期連続黒字予算となっています。

一般勘定(収入の部)

1. 健康保険収入は、全体で16億8,534万2千円の予算額です。

平均被保険者数は令和6年度の2,855名を基礎とし、年間増減幅を▲10名と見込み2,845名を算出しました。

平均標準報酬月額は、前年度比7,585円増となる380,834円を算出しました。

標準賞与総額は令和6年度の実績を基礎とし、育児休業者の減免保険料を加味した健康保険収入の見込みは16億8,495万7千円となりました。昨年度の決算見込み額と比べ2,096万円増収となります。

2. 調整保険料収入は一般保険料と同じ算出基礎により2,425万円を計上しました。

3. 繰入金は、不測の事態にそなえ、法定準備金から100万円、別途積立金より100万円、計200万円を繰り入れて収支均衡を図ります。

4. 国庫補助金収入は40万4千円を予算計上しました。

特定健診・特定保健指導の国からの補助金40万円、高齢者医療支援金等負担金助成事業費および災害臨時特例補助金、社会保障・税番号制度システム等補助金が、それぞれ名目計上1千円です。また、その他国庫補助金収入を新設し1千円を名目計上しました。

5. 特定健康診査等事業収入は事業主から頂戴する人間ドックに含まれる法定健診費用相当額で単価を7,150円とし、受診見込み数210名分、計150万1千円を計上しました。

6. 出産育児交付金は、52万6千円を見込み計上しています。

7. 財政調整事業交付金は、高額医療交付金400万円を予算計上しました。

8. 雑収入は合計で440万2千円です。主な収入としては保健事業一部負担金432万円で、これは人間ドックの自己負担金13,000円が240名分、インフル集団接種の自己負担1,200円を1,000名分見込み算出しました。

9. 介護勘定受入は、一般勘定から介護勘定へ一時的な資金の不足を融通し、その後余裕が

できて介護勘定から返還される資金の受け皿となる科目です。今年度は 100 万円を見込み計上しました。

以上により一般勘定の収入予算総額は 17 億 2,342 万 5 千円になりました。

一般勘定(支出の部)

1. 事務所費は健保組合の事務局運営のための経費で 3,570 万 2 千円を計上しました。
2. 組合会費は、臨時組合会の費用として 66 万 7 千円を見込み計上しました。
3. 続いては保険給付費を説明します。

法定給付費の予算は令和 6 年度の実績値（下半期は推定）に、4 年度～5 年度の平均伸び率を乗じて被保険者一名当たりの金額を算出し、平均被保険者数（2,845 名）を乗じて算出します。

更に薬価が 0.52%下がることの影響を加味したうえで、各値は算出しています。療養給付費の算出基礎 101,926 円はこのように計算され、これに予算人員 2,845 名を乗じた 2 億 8,998 万円が療養給付費の予算額となります。

以下、付加給付費についても法定給付と同様の計算を行い、科目ごとの予算額を算出しました。

4. 次は、納付金です。

納付金全体では 5 億 4,988 万 3 千円の予算額で、6 年度決算見込比で 1 億 399 万 3 千円の大幅減となりました。

内訳ですが「前期高齢者納付金」は 1 億 3,186 万円を納める見込みになります。概算納付金と確定納付金の差 1 億 3,247 万円のマイナス精算があり、こうした多大な精算が年度を越えて発生することが財政基盤の安定を大きく棄損している原因です。

「後期高齢者支援金」でも概算金と確定金の差マイナス 1,220 万円を精算金として本来の額から減じて払うため、7 年度は 4 億 1,801 万円を支払う予定です。

5. 次は保健事業費です。保健事業費全体では 5,993 万 2 千円の予算となります。

特定健康診査事業費は 40 歳以上の特定健診に要する費用で、本人が約 940 万円、家族は約 206 万円、併せて 1,147 万 1 千円を予算計上しました。

特定保健指導事業費は、本人の面接指導が約 155 万円、家族のメタボ指導が約 28 万円、併せて 183 万 1 千円を計上しました。

次は保健指導宣伝費です。本年度から、「健保だより」および「すこやかファミリー」に要する費用を計上していません。残ったのは組合 HP 運営費、保健衛生や健康保険制度などを啓蒙するなどの費用で計 85 万 7 千円を計上しました。

疾病予防費は人間ドックから健康インセンティブ報奨まで多岐にわたっており、予算額

は合計で 4,577 万 3 千円です。令和 6 年度までは、健康電話相談料 119 万円を計上していましたが、本年度は計上しておりません。主な内訳では、人間ドック費用として 1,048 万円を計上しました。家族健康診断ですが、単価の値上げを反映して予算額は 515 万円を計上しました。

6. 還付金は任意継続被保険者が、年度をまたいで他の医療制度へ移った際、前納した保険料を返還する科目で 46 万 5 千円を見込み計上しました。
7. 営繕費は、事務所の基幹サーバおよびクライアント PC、プリンター等の更新費用として 435 万 9 千円を計上しました。更新費用総額 670 万 1 千円のうち、ここはハードとソフトウェアのみの計上で、更新に必要な S E 作業費 234 万円は、事務所費の雑役務費に計上しています。
8. 財政調整事業拠出金は収入の部の調整保険料と同額の 2,425 万円を計上しました。
9. 連合会費は健保連など上部団体への会費で 70 万円を計上しました。
10. 積立金は健保組合の退職積立金で、名目額として 1 千円を計上しました。
11. 雑支出は 20 万 2 千円を計上しました。
12. 予備費は 1 億 5,152 万 6 千円を計上しました。保険給付費の 16.9%を確保し安全を期しています。
13. 介護勘定繰入は、100 万円を予算計上しました。

以上により一般勘定の支出予算総額は 17 億 2,342 万 5 千円になりました。

介護勘定（収入の部）

1. 介護保険収入は 2 億 2,200 万 8 千円を予算計上しました。
介護保険料率は千分の 18 で据え置きです。
2. 繰入金は法定準備金繰入を 100 万円計上しました。
3. 雑収入は 3 千円を計上しました。
4. 一般勘定受入は 100 万円を計上しました。

以上により介護勘定の収入予算総額は 2 億 2,401 万 1 千円になりました。

介護勘定（支出の部）

1. 介護納付金は、1 億 9,930 万 8 千円で、前年度決算見込比では 1,048 万 6 千円の減額となりました。
2. 還付金は 6 万円を計上しました。

3. 積立金は名目計上1千円のみ計上です。
4. 一般勘定繰入は、一般勘定から借りた資金を返還するための支出科目で、100万円を計上しました。
5. 雑支出は雑費1千円を名目計上しました。
6. 予備費は2,364万1千円を計上しました。収支を同額とするため、この科目に収入支出差し引残を計上しています。

以上